



X E A M

ELECTRIC MOBILITY

UKKOS +

取扱説明書



TROMOX

乗車前にこのマニュアルをよく読み、大切に保管してください。

Ver. 04

2025年 1月 発行

1. 本書に記載されている写真、技術情報、データ、説明書、その他の情報は、販売前に確認したものです。
お客様のご要望にお応えするため、必要に応じて予告なしに変更を加える事があります。
2. 当社の許可なくこの取扱説明書の内容をコピー、保存、または転記することは禁止されております。
3. TROMOXが指定した部品以外の改造を施した車輦に関しては、当社は一切の責任を負いません。必ず純正部品を使用してください。
当社以外が製造したパーツやアクセサリーの使用により生じた損失は、いかなる場合であっても責任は負いません。

はじめに

TROMOX UKKOS+をご購入いただき、誠にありがとうございます。

このマニュアルでは、TROMOX UKKOS+の基本的な操作とメンテナンスについて説明します。
乗車前にこのマニュアルをよくお読みください。

正しい操作とメンテナンスは、良好な乗り心地と良い性能を発揮するとともに、耐用年数を延ばすことが可能です。

購入後のメンテナンスは、XEAM取扱店で修理・整備が可能です。

この取扱説明書のデータや仕様はTROMOX社の開発時の設計に従って設計され、変更と解釈の権利はTromox Technology Co.、Ltdに属します。

この商品の技術的変更点については、輸入元である株式会社MSソリューションズのウェブサイトを参照してください。

<https://www.xeam.jp/>

それでは安全な旅をお楽しみください!

目次

ご使用前に	03
安全上の注意	03
諸元表	05
使用方法の説明	06
■ 部品配置図	06
■ 車両識別番号 (VIN) とモーター型番の位置	08
■ メーター表示	08
■ ハンドルスイッチ	09
■ チェーンメンテナンス	10
■ タイヤ	10
■ バッテリーの取扱い	11
■ 充電器の使用について	14
■ 起動と盗難防止アラーム	15
■ 乗車前点検	17
操作ガイド	18
■ 走行前の操作	18

メンテナンス	19
トラブルシューティング	21
アフターサービス	23
電気回路図	25

ご使用前に

1. 乗車前にこのマニュアルの情報を注意深くお読みください。その他の指示や警告に基づいて、バイクが良好な状態にあるか確認してください。問題があった場合は、XEAM取扱店またはMSソリューションズまで連絡してください。
2. 車両の操作や機能に関して、警告、および注意について十分理解してから操作してください。
3. 車体に表示された警告ラベルをよく確認してください。
4. この製品内の回路を修理、分解、または交換することは固く禁じられています。修理または交換が必要な場合は、XEAM取扱店またはMSソリューションズまで連絡してください。
5. この取扱説明書は大切に保管してください。

安全上の注意

自分や他の人の安全のために、次の指示に従ってください。

1. 該当免許のない人は、このバイクを運転することはできません。
2. 安全のため、乗車中はヘルメットを着用してください。乗車中のヘルメット着用は法律で義務付けられています。
3. UKKOS+は2人乗り可能です。
4. 運転に影響を与える可能性のある薬物を服用した後や、アルコールを飲んだり肉体的に気分が悪いときは運転を控えてください。
5. 積載量には、乗員の体重が含まれます。荷物の積載重量についても法律に順守してください。
6. 未舗装、濡れた路面では制動距離が長くなりますので、ご注意ください。急ブレーキ等の操作はしないでください。
また、嵐や台風などの悪天候下では、運転を控えてください。
7. 停車中は不意の発進を避けるため、パーキングモードにしてください。
8. バイクから離れるときは必ず電源を切り、小さな子供から遠ざけてください。

9. このバイクはリチウムイオン電池を使用しています。事故を防ぐために以下の項目を守ってください。

(1) バイクを建物の緊急脱出区域、駐車場以外に駐車しないでください。

(2) バッテリーを可燃物から遠ざけて充電してください。また、バッテリーが完全に充電されたら速やかに充電器を外してください。

(3) バッテリーは警告ラベルに注意して適切に使用してください。バッテリーは分解してはいけません。

バッテリーを廃棄する際は、取扱店舗またはMSソリューションズまでご相談ください。

(4) 充電器の使用方法および警告を読んでご使用してください。充電器を交換する際は、必ず当社指定の純正品を使用してください。

(5) 洗車時は洗車手法を読んで作業を行ってください。

10. 乗車前にチェックが必要な項目：

(1) ヘッドライト、ウインカー、テールライト、ブレーキランプ、ナンバー灯、ホーン等が正常に作動するかを確認してください。

(2) フロントブレーキとリアブレーキが正常に作動するか、ブレーキキャリパーの固定ボルトが締まっているかを確認してください。

(3) タイヤの空気圧は正常かを確認してください。

(4) ハンドルバーおよび前輪と後輪がしっかり固定されているかを確認してください。

(5) リフレクターに損傷または汚れがないかを確認してください。

(6) バックミラーを確認し、乗車姿勢の時、後方10メートル以上の範囲を視認できるよう調整してください。

諸元表

UKKO S+

項目	仕様
全長x全幅x全高	1855 x 800 x 1045 mm
ホイールベース	1295mm
車体重量	110kg ※1
最大耐荷重	150kg
最高速度	90km / h
登坂能力	22°
航続距離	90km ※3 , 100km ※4
タイヤサイズ	フロント:100/80-14 リア:120/70-14
空気圧	225kPa ※2 280kPa ※2
ホイールサイズ	フロント:MT2.50-14 リア:MT3.50-14
モーター作動電圧	72V
電装品作動電圧	12V
バッテリー	リチウムイオンバッテリー
セル	ブレードセル

項目	仕様
バッテリー容量	72V55Ah
充電器の充電電流	8A
モーターの定格出力	1000W
モーターの最大トルク	203N・m
モーターの定格回転数	1800rpm
コントローラ	F0Cベクトルコントローラ
コントローラの作動下限電圧	62V
コントローラの限界電流	45A

※1 バッテリー含む総重量。

※2 自社推奨空気圧値 フロント 170kPa/リア 200kPa
ハンドリングに違和感がある場合は調整を行って下さい

※3 体重75kgのライダーが時速50km/h、気温10°Cで平地走行した場合。(メーカー値)

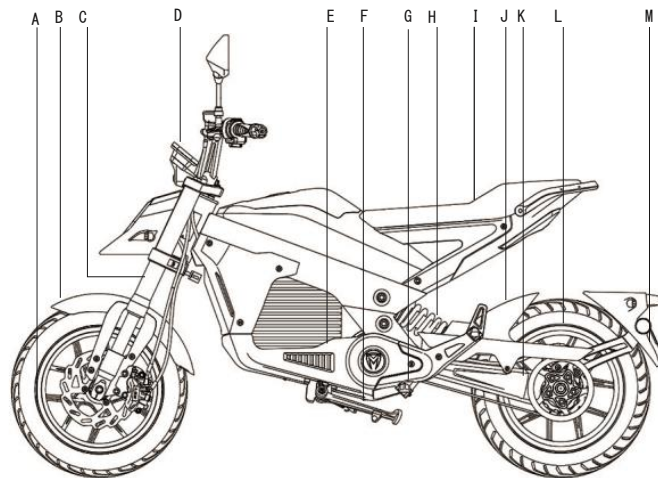
※4 体重60kgのライダーが時速50km/h、気温10°Cで平地走行した場合。(自社測定値)

※諸元値は理論値であり、実際は荷重、気温、風速、路面、運転の癖など様々な要因の影響を受けます。

※各車両の航続距離は、お客様のご使用環境(気象条件・体重・勾配・運転方法・車両状態・装備など)によって、大きく変化致します。航続距離のカタログ値は参考数値としてお考え下さい。

使用方法の説明

■ 部品配置図(左側面)



A. フロントホイール

B. フロントフェンダー

C. フロントフォーク

D. メーター

E. ボトムシールド

F. サイドスタンド

G. ステップ

H. リアサスペンション

I. シート

J. リアフェンダー

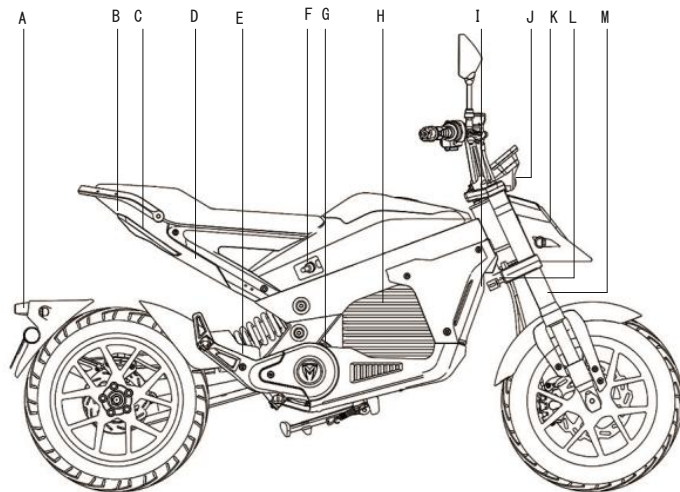
K. スイングアーム

L. リアホイール

M. リアカバー

使用方法の説明

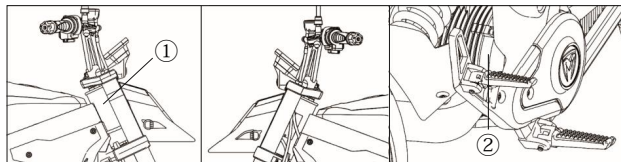
■ 部品配置図(右側面)



- | | | | | |
|------------|---------------|-------------|--------------|-----------------|
| A. ナンバー灯 | B. リアカメラ(非対応) | C. テールランプ | D. シートロック | E. ステップホルダ |
| F. 車体充電ポート | G. モーター | H. バッテリーケース | I. FOGコントローラ | J. フロントカメラ(非対応) |
| K. ヘッドライト | L. ハンドルロック | M. フロントフォーク | | |

使用方法の説明

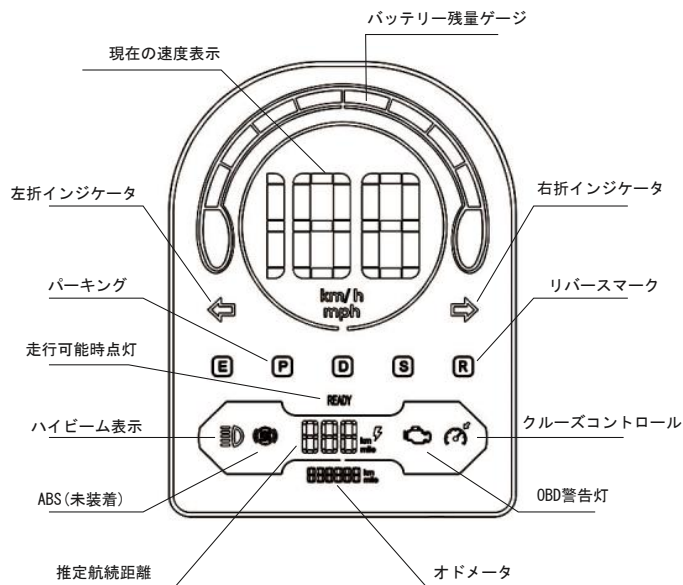
■ 車両識別番号 (VIN) とモーター型番の位置



- ① VIN(車両識別番号) : ヘッドパイプ右側に打刻
- ② モーターシリアルナンバー : モーターハウジング右側に表示

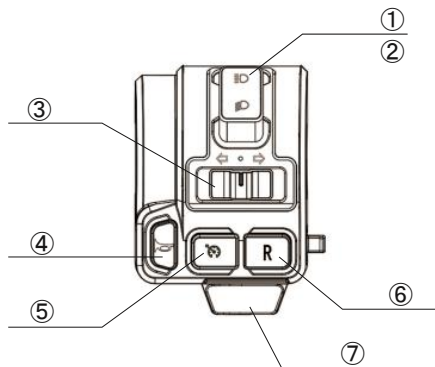
■ メーター表示

UKKO S+Lite



使用方法の説明

■ ハンドルスイッチ左



① ハイビームボタン

② ロービームボタン

③ ウィンカースイッチ:

左に移動すると左側ウィンカーが作動し、右に移動すると右側ウィンカーが作動します。中央に戻すと作動を停止します。

④ ホーンボタン

⑤ クルーズコントロールボタン:

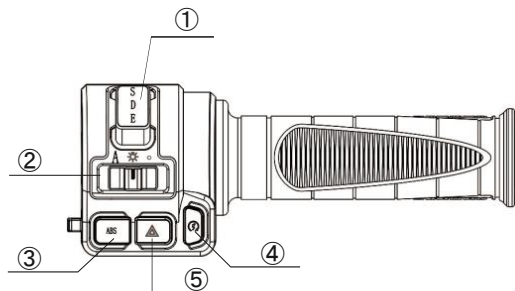
走行中に押した時点で速度が維持されるため、スロットルの操作が不要になります。解除するにはブレーキかスロットルの操作もしくは、もう一度ボタンを押します。

⑥ バックボタン

バックボタンを押したままスロットル操作を行うと、後退します。

⑦ USB電源

■ ハンドルスイッチ右



① モードセレクトスイッチ:

S: スポーツモード(高速) / D: ドライブモード(中速) / E: エコモード(低速)

② 未装着

③ 未装着

④ スタートボタン

⑤ ハザードボタン

使用方法の説明

■ チェーンメンテナンス

チェーンの緩みが適正か、滑らかに回転するか確認します。

緩みが既定の範囲を超えている場合や滑らかに回転しない場合は、取扱店舗での点検調整を行ってください。

(1) スプロケットサイズ : フロント428-15T リア 428-46T

(2) チェーンサイズ : 428-110リンク

調整範囲の確認

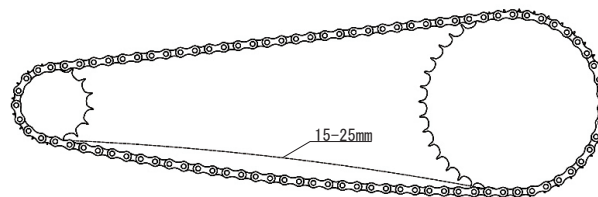
(1) 前後のスプロケットの中央部を上下に動かしチェーンの緩みが既定の範囲にあることを確認する。

(チェーンの緩み: 15-25mm)

※チェーンの緩みが規定値以上の場合は走行しないでください。

(2) 車体を垂直にし、前後に動かしてチェーンが滑らかに回転することを確認する。

※チェーンの回転が滑らか出ない場合や、異音が出る場合は清掃と給油を行ってください。



■ タイヤ

	フロント タイヤ サイズ	リア タイヤ サイズ	タイヤ空気圧
UKKOS+	100/80-14	120/70-14	F : 225kPa±25kPa R : 280kPa±25kPa

使用方法の説明

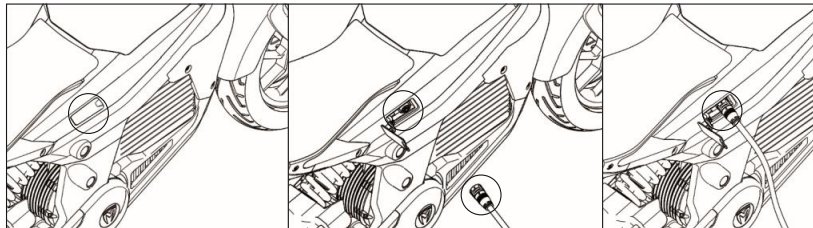
■ バッテリーの取扱い

1. 車載状態での充電 (図1)

- ① 車体右側のカバーを開きます。
- ② 充電器の出カソケットを車両の充電ポートに接続します。
充電器のプラグを電源コンセントに接続します。
充電中はインジケータランプが赤色に点灯します。
充電が完了するとインジケータランプは緑色に点灯します。
- ③ 充電完了後は電源コンセントから抜いてください。

※延長コードは使用せず、単独でコンセントに接続してください。

図1

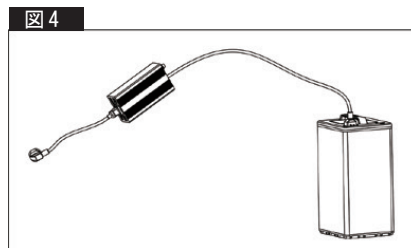
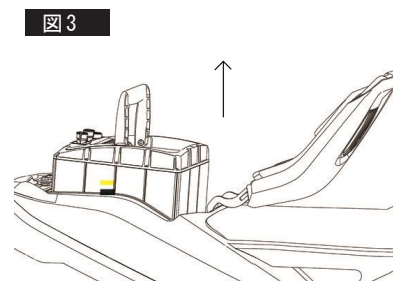
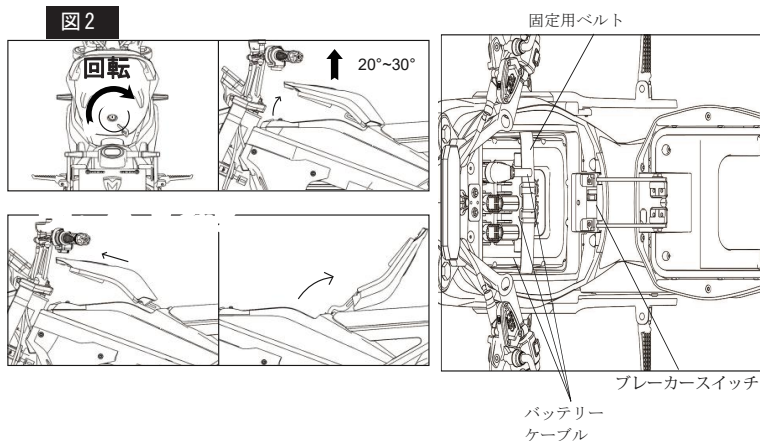


使用方法の説明

2. 車両からバッテリーを外しての充電 (図2)

- ①車体後側のキーシリンダーに鍵を挿して右に回し、ストレージカバーのロックを解除します。
- ②ストレージカバーを開きます。
- ③ブレーカースイッチをOFFにします。
- ④バッテリー固定ベルトを外し、バッテリーケーブル3本のロックを解除してバッテリーケーブルを外します。
- ⑤バッテリーを持ち上げて取ります。(図3)
- ⑥充電器の出力ソケットをバッテリーに接続します。(図4)
屋内電源コンセントに充電器のプラグを接続します。
充電中はインジケータランプが赤色に点灯します。
充電が完了するとインジケータランプは緑色に点灯します。

- ※ 充電が完了後も充電器を繋いだままにするとインジケータランプが赤色に点滅するため、速やかに充電器を取り外してください。
- ※ 延長コード等は使用せず、単独でコンセントに接続してください。
- ※ バッテリーを戻す手順は外す時と逆の手順で行います。



使用方法の説明

3. 注意事項

バッテリーを使用する前に取扱説明書をよくお読みください。

ガイドラインに従わない場合、バッテリーの発火や破裂等の深刻な事態が発生します。

- ① バッテリーが被水、浸水しないようにしてください。
- ② 充放電は下記環境で使用してください。
 - ・放電(走行)可能温度: -20~60°C
 - ・充電可能温度: 0~45°C
- ③ 長期間使用しない場合はバッテリーを外し、適切に保管してください。車載した状態ですとバッテリーは放電していきます。一週間以上保管する場合は、毎月充電状態を確認し70%まで充電してください。バッテリーは乾燥した換気の良い場所に保管し、可燃物から遠ざけてください。長期に渡るバッテリーの保管期間と保管時の室内温度範囲は下記の通りです。
 - ・ 1か月: -20~60°C、 3か月: -20~45°C、 1年: -20~25°Cバッテリーを1年以上保管したままにすると損傷し、保証が無効になる事があります。
- ④ バッテリーの端子を短絡させないでください。純正以外の充電器との接続はしないでください。
- ⑤ バッテリーを火に投入しないでください。バッテリーは火、熱源、子供などから遠ざけて保管してください。バッテリーを落下させないでください。バッテリーを分解したり、改造等をしないでください。
- ⑥ 充電する際は正規の充電器であるか確認してください。
- ⑦ バッテリーから出火している場合は、すぐに電源を切り消火器や大量の水で消火してください。
- ⑧ ご不明な点がございましたら取扱店舗またはMSソリューションズまでお問い合わせください。

使用方法の説明

■充電器の使用について

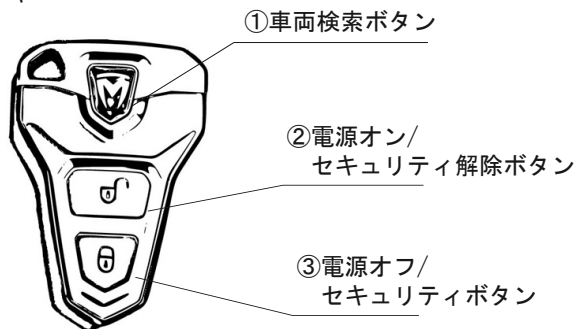
1. 使用する前に、充電器の仕様を確認してください。異なるモデル用の充電器は使用しないでください。
2. 充電器は防水グレードIPX1です。雨天時に野外での充電は避けてください。
3. ケーブルが損傷している充電器は使用しないでください。
4. 濡れた手で充電器を抜き差しすることは避けてください。
5. 熱源の近くや直射日光の当たる場所では充電を控えてください。
6. 充電器を可燃物や爆発性ガスの近くで使用しないでください。
7. 充電器の吸気部/排気部を塞ぐことは避けてください。バッテリーの故障に繋がります。
8. 充電する前に、充電器の出力側のソケットが緩んでいないか確認してください。
9. 充電中のインジケータのライトは赤色で、充電が完了すると緑色に変わります。
10. バッテリーが充電されていないとき、または充電が完了した後は、必ず充電器のコンセントを抜いてください。
11. 乗車中は充電器を持ち運ばないでください。振動により内部の電子部品が破損する可能性があります。
12. 屋内電源のAC電圧が充電器のAC入力電圧と一致していることを確認してください。
13. 充電器を自分で修理したり、分解したりしないでください。
14. 電源コードや出力ケーブルを直接引っ張らないでください。

誤った使用によって発生した損害に関しては、メーカーは責任を負いません。

使用方法の説明

■ 起動と盗難防止アラーム

リモコンキー



①車両検索ボタン

②電源オン/
セキュリティ解除ボタン

③電源オフ/
セキュリティボタン

1. 車体電源の入り切りと車両検索

※シート下のブレーカをONへ切替えます。

車両検索：

①車両検索ボタンを1回押すと車両が音を出し、駐車場などで車両の位置を簡単に確認できます。

電源ON：

②電源オンボタンを1回押すと車両が起動して灯火類が点灯します。

電源OFF：

③電源オフボタンを1回押すと車両の灯火類が消えて待機状態になります。

使用方法の説明

2. 盗難防止アラームの作動開始と解除

盗難防止アラームの作動開始：

電源オフ/セキュリティボタン③を1回押す、又は、電源OFFから約15秒後に自動で盗難防止装置が作動します。
ホイールの動き(移動)や車体の振動を感知した場合に警報が鳴ります。

盗難防止アラームの作動解除：

電源オン/セキュリティ解除ボタン②を1回押すと、盗難防止装置が解除されます。
電源オフ/セキュリティボタンを1回押すと、盗難防止装置が作動状態になります。

※盗難防止アラームを作動させない為には、

- ①ブレーカースイッチをOFFにする
- ②バッテリーケーブルを外す

各種サウンドレベル

- ・起動音 60dB (A) /2m
- ・アラーム作動時 95dB (A) /2m

※音量を変更することは出来ません。

使用方法の説明

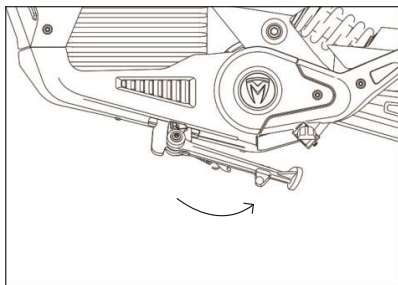
■乗車前点検

1. ハンドルロックが解錠されているか、ハンドルが滑らかに操舵できるかを確認します。
2. ハンドルがしっかりと固定されているか、左右のハンドルスイッチが正常に作動するかを確認します。
3. バックミラーがしっかりと固定されているか、鏡面に汚れがないかを確認し、後方が視認できるように調整します。
4. タイヤ空気圧が適正か確認します。
5. タイヤ表面にひび割れや損傷がないか、溝の深さが0.8mm以下になっていないかを確認します。
6. 電源を入れ、メーターに異常が表示されていないことを確認します。
7. 走行距離に応じてバッテリーが充電されているか確認します。
8. ヘッドライト、テールライト、前後左右のウィンカーが正常に作動するかを確認します。
9. ホーンが正常に機能するかを確認します。
10. ブレーキオイルが十分であるか、およびブレーキレバーとブレーキシステムが正常に作動するかを確認します。
11. 異常がある場合は、XEAM取扱店またはMSソリューションズまで連絡してください。

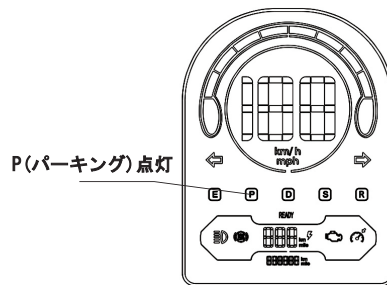
操作ガイド

■ 走行前の操作

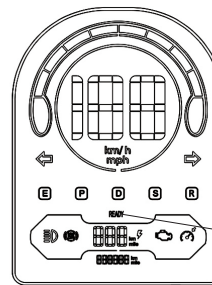
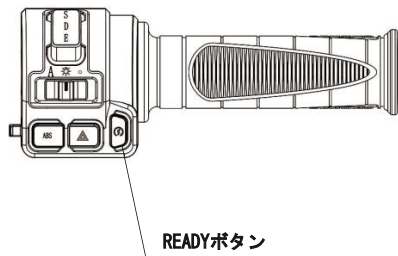
- ① ヘルメットを被り、あご紐を締めます。リモコンキーの電源オンボタンを押して、車両の起動後に車両へ乗車します。
- ② サイドスタンドを上げると、スピードメーター表示のP表示が消灯します。



P(パーキング) 表示



- ③ ブレーキレバーを握りながらスタートボタンを押すと、メーターのインジケータ「READY」が点灯します。
以上の操作を行うことで運転する準備が完了しました。
(スタートボタンをもう一度押すと、「READY」表示灯が消灯し、車両が待機状態に切替わります。)



※ 乗車する前は周囲の交通に十分に注意し、安全に運転してください。

メンテナンス

定期的なメンテナンスにより、車両の安全性と耐用年数を向上させることができます。

XEAM取扱店にて以下の提案に従って、車両の定期的なメンテナンスと検査を行ってください。

1. 洗車

- ① 清掃する前に、必ずブレーカースイッチをOFFにしてください。
- ② 車両を水洗い等で直接洗うことは控えてください。電気部品が損傷したり故障する可能性があります。
- ③ 車両の清掃は、傷がつかないように柔らかい布にきれいな水と中性洗剤を含ませて拭いてください。
- ④ 清掃中に誤って電気系統に影響が出た場合は、水分を拭き取り乾燥させてください。

2. 定期的な自己診断チェックリスト

No.	点検間隔	点検内容
1	1ヶ月	前輪と後輪の締め付けを確認してください。
2	半月	ブレーキキャリパーの締め付けを確認してください。
3	2ヶ月	ブレーキオイルのレベルを確認します。
4	半月	ブレーキパッドの状態とブレーキの利き具合を確認してください。
5	1ヶ月	ハンドルの締め付けを確認してください。
6	1ヶ月	チェーンの張り具合を確認してください。
7	半月	チェーンの注油状態を確認してください。(注油する前に必ず電源を切ってください。)
8	1ヶ月	配線が摩耗または損傷していないか確認してください。
9	1週間	車両に異音や部品の緩みによる音がないか確認してください。
10	1週間	タイヤ空気圧が250kPaか確認します。

メンテナンス

3. 長期保管

- ① 保管する際はバッテリーの放電を防ぐためにブレーカースイッチをOFFにします。
- ② 保管場所は強い日光や雨にさらされないよう、車両を乾燥した涼しい場所に駐車してください。
屋外駐車をする場合はバッテリーを取り出して、車体カバーで車両を覆い、風などに注意して保管してください。
- ③ 保管後に使用する場合は、使用前にバッテリーを完全に充電し、タイヤの空気圧を規定値にしてご使用ください。

4. メンテナンス上の注意

- ① メンテナンスおよび修理は、販売店で行う必要があります。その場合に使用できる部品は純正部品に限ります。
- ② TROMOXの指定する定期的なメンテナンスを行わなかった場合や、誤った使用に起因する損害または部品の損傷は保証致しません。
- ③ 所有者が自分で車両を分解したり、純正以外の部品を使用した場合、当社は一切の責任を負いません。

トラブルシューティング

事象	点検間隔	点検内容
車両全体の電源が入らない リモコンで起動できない	バッテリーが正しく接続されていない	正しくバッテリーを接続する
	バッテリー管理システム (BMS) による保護	短絡がないことを確認し、10分後に電源を入れ直す
	ブレーカースイッチがオンになっていない	ブレーカースイッチをオンにする
	盗難防止アラームの故障	盗難防止アラームを交換する
スロットルを回しても 走れない	サイドスタンドが収納されていない	サイドスタンドを収納する
	スタートボタンが押されておらず「READY」インジケータライトが消灯している	スタートボタンを押す
	バッテリーの充電残量が少ない	バッテリーの充電をする
	ブレーキレバーが正しい位置に戻っていない	レバー摺動部を潤滑し、正しい位置に戻す
	スロットルの故障	スロットルを交換する
	コントローラ接続部が緩んでいる	コントローラ接続部をしっかりと締め付ける
	スロットルの接触不良	スロットルの接触を調整する
	モーターホールプラグの接触不良	モーターホールコネクタのプラグピンを調整する
	モーターの故障	モーターを交換する
	コントローラの故障	コントローラを交換する
走行速度が遅い 走行できる距離が短い	バッテリーの充電残量が少ない	バッテリーの充電をする
	タイヤの空気圧が不足している	タイヤの空気圧を250kPaに調整する
	過負荷状態での運転	過負荷を避けて運転する
	ブレーキパッドが片あたりしている	ブレーキキャリパーをオーバーホールし、パッドの位置を調整する
	バッテリーが劣化している	バッテリーを交換する
ブレーキランプの不点灯	ブレーキスイッチの故障	ブレーキスイッチのコネクタで導通確認、ブレーキスイッチを交換する

トラブルシューティング

事象	原因	対応方法
バッテリーを充電することができない	充電器の出カソケットの接触不良	出カソケットが正しく差し込まれているか確認する
	違う充電器の使用	指定された純正充電器を使用する
	バッテリーの経年劣化または故障	バッテリーを交換する
ブレーキをかけているときに音が出る	ブレーキパッドが摩耗している	ブレーキパッドを交換する
	ブレーキディスクが緩んでいる	ブレーキディスクの締付ボルトを締める
ヘッドライトとテールライトが点灯しない	バッテリーケーブルが緩んでいるか、挿入されていない	バッテリーケーブルの挿入を確認する
	ライトユニットの断線	配線やコネクタを確認する、ライトを交換する
	DC/DCコンバータの故障	電装系が作動しない場合は、DC/DCコンバータを交換する
ウィンカーが点滅しない	コントロールスイッチの故障	スイッチ裏で電圧を測定、スイッチを交換する
	ウィンカーの断線	ウィンカーコネクタで電圧を測定、ウィンカーを交換する
	ウィンカーの故障	ウィンカーを交換する
	DC/DCコンバータの故障	電装系が作動しない場合は、DC/DCコンバータを交換する
車両の電源は入るが、メーターが表示されない	メーター コネクタの接触不良、故障	メーターコネクタの確認と清掃、解消しない場合はメーターを交換する
	DC/DCコンバータの故障	電装系が作動しない場合は、DC/DCコンバータを交換する
メーター内のバッテリー残量、速度、温度、その他の情報が表示されない	メーターの故障	メーターコネクタの確認と清掃、解消しない場合はメーターを交換をする
	VCU通信モジュールの故障	配線やコネクタを確認する、VCUを交換をする
	盗難防止アラームの故障	配線やコネクタを確認する、盗難防止アラームを交換をする
	MCUコントローラ通信モジュールの故障	配線やコネクタを確認する、MCUコントローラを交換をする

アフターサービス

保証対象外項目

車両を使用する事により発生する消耗、摩耗については保証の対象外です。

保証適用から除外される項目

1. 指定された保証期間を超えている場合。
2. ユーザーが製品を正しく使用しないで故障、損傷、衝突、過負荷などの事象が発生した場合。
3. 取扱説明書の規定に従って製品を正しく運転、保守、調整していない場合。
4. 確認走行等でバイクが正常な状態にない事が発覚した場合。
5. ユーザーがバッテリーを適切に使用または保守していないため、バッテリーのパフォーマンスが低下したり、技術的な障害が発生した場合。たとえば、車両が未使用のままである、長期間駐車されている、定期的に充電されていないなどが該当する。
6. TROMOXによって正式に承認されていない充電器またはアクセサリの使用。
これにより、車両の故障または性能の問題が発生した場合。
7. 許可されていない部品の分解により部品の故障やアクセサリの損傷を引き起こした場合。
8. TROMOXによって承認されていない、車両に取付けられたアフターマーケットアクセサリによって引き起こされた損傷、誤動作、又はパフォーマンスの問題が発生した場合。
9. ユーザーによる不適切な保管は、火災、化学的腐食が発生する可能性があります。
10. 不可抗力（地震、台風、洪水、火災、社会的出来事、大規模な事件、暴力犯罪、無責任な交通事故の偶発的な損失を含むがこれらに限定されない）によって引き起こされる障害または損害の場合。
11. 本製品およびコンポーネントの保証サービスの日付を許可なく変更、破棄、または内容を変更する権利をMSソリューションズは有しします。

アフターサービス

12. 有効な保証証明書を提示できない場合。請求書もしくは領収書が製品と整合性が取れない場合。
13. 製品の乗り心地、外観、色、騒音レベル、触覚、その他の主観的な理由に対する不満は保証の範囲外です。
14. 広告/プロモーション製品およびギフトは、保証範囲に含まれていません。
15. ブレーキパッドが摩耗している場合。
16. 盗難防止アラームのリモコンを無くしてしまった場合。
17. 購入前に欠陥を顧客へ通知せず、不適切な販売価格で製品を顧客に販売した場合。
18. 品質問題が発生した後、ユーザーの不適切な使用によって引き起こされた損傷。

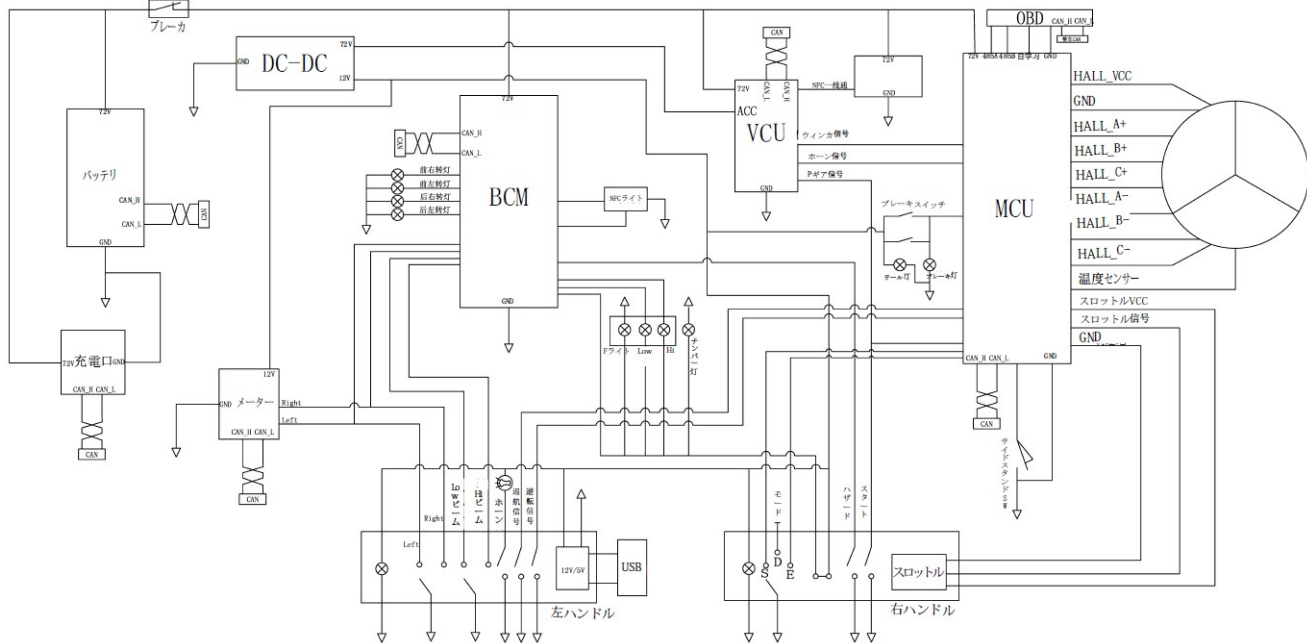
車両の再販と保証

車両の保証期間内に、ユーザーが車両を他の人に転売した場合、車両の残りの保証期間は自動的に次のユーザーへ譲渡されます。次のユーザーは、保証サービスを継承する関連文書を受領するものとします。

注意：

1. この取扱説明書は車両の転売後、保証の権利を確保するために、この取扱説明書を次のユーザーへお渡しください。
2. 車両の保証期間内に保証サービスを受ける場合、ユーザーは取扱説明書の保証書の内容により保証サービスが適用されます。

電気回路図



お問い合わせ

バイクについてのお問い合わせ・ご相談は取扱店にお気軽にご連絡ください。

取扱店

TEL

製品についてお問い合わせ

**XEAM事業部
事務局**

TEL 092-292-5374 **MAIL** info_xeam@mssjapan.jp

受付時間 9:00-12:00 / 13:00-18:00 (月~金)

〒810-0801 福岡県福岡市博多区中洲5丁目6-24 第6ガーデンビル6F

輸入元：株式会社MSソリューションズ

XEAM 公式ホームページ：<https://www.xeam.jp/> | MSソリューションズ公式ホームページ：<https://www.mssjapan.jp/>

保証書

製品保証について

保証書に記載の対象車両の保証部位に、材料上もしくは製造上の不具合等による故障が発生した場合、無償で修復させていただきます。なお、弊社の指示、承諾を得ずに改造等を行った車両については全て保証対象外とさせていただきます。

※一般的な使用用途外（レース場での使用等）についても保証対象外とさせていただきます。

保証対象部品… フレーム・フロントフォーク・スイングアーム・ホイール・リヤサスペンション・ブレーキ・ステアリング・電動機・コントローラー・走行用バッテリー・その他メーカーが定めた主要部品。

保証適用外の範囲… 外装部品・シート・消耗部品（ブレーキパッド・ブレーキシュー・タイヤ・ゴム類・油脂類等）・ブレーキディスク・電球類・ヒューズ等）・その他メーカーが定めた部品・主観的な音や振動に関する部品

車両の譲渡について詳しくは、WEB ページをご覧ください。 <https://www.xeam.jp/>

1カ月点検について

新車登録または届け出をされてから1カ月を目安に行う点検です。この時期の点検は車両寿命に影響を与えることが多いことから、新車登録または届け出をされてから約1カ月（または1000km時）の点検を弊社提携店舗にて実施いたします。直営店（WEB販売含む）にてご購入いただいた場合は無料にてお受付いたします。有効期間を過ぎますと、有料となります。（有効期間：新規登録もしくは届け出をしてから約1カ月もしくは有効期間内に走行距離が1000kmを超える場合は、1000km走行時となります。）

● 1カ月の点検内容

- ・電動機の低速及び加速の状態の点検
- ・リム及びホイールディスクの損傷の点検
- ・ブレーキの利き具合の点検
- ・ブレーキロッド及びケーブル類の緩み、がた、損傷等の点検
- ・タイヤの空気圧亀裂、損傷、異状摩耗、溝の深さ
- ・ブレーキホース及びパイプの液漏れ、損傷、取り付け状況の点検

定期点検について

2007年4月1日より『道路運送車両法』の改正等により、2007年4月1日以降の新車登録車より、以下の内容での定期点検内容に変更となりました。

- ・6カ月点検の廃止
- ・走行距離加味点検とシビアコンディション点検の設定

点検の種類について

● 日常点検

法律に準じてユーザー様自身で日々の車両の状況、状態に応じてユーザー様自らが適宜行う点検です。走行前、充電前、洗車前等に行ってください。

- ・ブレーキ（前後）レバー（ペダル）の遊び、きき具合
- ・ブレーキ液の量（前）
- ・灯火装置および方向指示器
- ・低速・加速の状態
- ・タイヤの空気圧亀裂、損傷、異状摩耗、溝の深さ
- ・運行において異状が認められた箇所

● シビアコンディション点検

通常使用より過酷な状況で車両を使用した場合、部品の劣化や破損等が通常より早く進行してしまうケースがございます。それを早期に発見するために整備士が6カ月ごとに行う点検のことをさします。シビアコンディションの目安、状況については以下の通りです。

- ・坂道や山道の走行が全走行の30%以上を占めている。またそれに伴うブレーキの使用が多い。
- ・走行距離が半年で3000km以上である。
- ・未舗装路や凹凸道の走行が全走行の30%以上を占めている。

※整備点検等でご不明な点は販売店、取次店にご相談ください。

保証有効期間について

店舗でご購入 : 登録日から2年 or 10,000km 走行時

弊社HPでご購入 : 出荷日から2年 or 10,000km 走行時

※年数、kmは早く到達した方を適用

ご購入日 年 月 日

氏名 様 TEL - -

〒

住所

登録番号

車名 車台番号

メンテナンス スケジュール

		1,000km または 1ヶ月 (いずれか早い方)	2,500km または 6ヶ月 (いずれか早い方)	5,000km または 1年 (いずれか早い方)	7,500km または 1年半 (いずれか早い方)	10,000km または 2年 (いずれか早い方)
コンポーネント	作業内容					
全般	I	✓	✓	✓	✓	✓
ステアリング、操作系	I/E	✓		✓		✓
ステアリングベアリング	I/C/L	✓		✓		✓
電気系統	I	✓	✓	✓	✓	✓
ライト、スイッチ	I/E	✓	✓	✓	✓	✓
サーキットブレーカー	I	✓	✓	✓	✓	✓
ホイールベアリング	I/E			✓		✓
ホイール、リム	I	✓	✓	✓	✓	✓
タイヤ	I*			✓		✓
ブレーキ全般	I/C/E	✓		✓		✓
ブレーキオイル	E					✓
フロントフォーク	I	✓		✓		✓
リヤショックアブソーバー	I	✓		✓		✓
スロットル	I/L			✓		✓
メイン/サイドスタンド	I/C/E	✓		✓		✓
チェーン	I/C/L	✓	✓	✓	✓	✓

I… Control (点検) E… 交換 C… 清掃 L… 給油 *Check: 溝深さ / 空気圧

【Controlについて】

機能が正しいか確認してください。清掃や給油の指示があれば追加で行わなければなりません。エラーや欠陥が検出された場合は、修復する必要があります。
 ※運行前点検は上記の表に関わらず行う必要があります。

メンテナンス レコード

日付	年 月 日	走行距離	
ノート			
販売店			

1ヶ月点検整備記録簿(電動車)

二輪車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

●参照事項

※1 各変速モードで作動させ、うなり音等の異音の有無を確認お願いいたします。

※2 ステム緩み止めナットの状態確認要。

※3 タイヤ溝深さを確認。

※4 タイヤ規定空気圧→(前)250kPa/(後)250kPa

電動機点検

■ 本体 _____

電動機の作動状態・異音の有無※1 低速・加速の状態

■ 動力伝達装置 _____

チェーン・ベルトの緩み
 スプロケット・プーリーの取付状態磨耗

ステアリング装置点検

■ ハンドル _____

操作具合

■ フロントフォーク _____

損傷
 ステアリングシステムの取付状態※2
 ステアリングシステムの軸受け部のがた

電気・保安装置点検

■ 走行用バッテリー _____

本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ スイッチ類 _____

灯火装置・方向指示器の作用
 ホーン・ハンドルロック装置の作用
 計器の作用

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品/記事等

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー _____

遊び ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類 _____

緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ _____

漏れ・損傷・取付状態

■ リザーバタンク _____

ブレーキ液の量

足回り点検

■ ホイール _____

タイヤの空気圧※3 タイヤの亀裂・損傷の有無

タイヤの溝の深さ・異常な磨耗※4

ホイールのボルト・ナットの緩み

■ ショックアブソーバー _____

損傷・オイル漏れの有無

その他

外観樹脂パーツの損傷の有無

車両番号

初度登録年又は初年度検査年

車台番号

点検時の総走行距離

km

点検年月日

年 月 日

整備完了日

年 月 日

タイヤの溝の深さ

F mm R mm

ブレーキパッド残量

F mm R mm

点検又は整備を実施した者の氏名

印

住所

〒

定期点検整備記録簿 (電動車)

一輪車	該当なし	／	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6ヵ月点検整備…… +

● 12ヵ月点検整備…… +

※納車時点検は6ヵ月点検に準ずる

電動機点検

■ 本体 _____

電動機の作動状態・異音の有無 低速・加速の状態

■ 動力伝達装置 _____

チェーン・ベルトの緩み
 スプロケット・プーリーの取付状態磨耗

ステアリング装置点検

■ ハンドル _____

操作具合

■ フロントフォーク _____

損傷 ステアリングシステムの取付状態
 ステアリングシステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール _____

タイヤの空気圧 タイヤの亀裂・損傷の有無
 タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
 ホイールのボルト・ナットの緩み
 フロントホイールベアリングのがた
 リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム _____ ■ ショックアブソーバー _____

連結部のがた・アームの損傷 損傷・オイル漏れの有無

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー _____

遊び ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類 _____

緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ _____ ■ リザーバタンク _____

漏れ・損傷・取付状態 ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ _____

機能・磨耗・損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー _____

ドラムとライニングのすき間
 シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

■ バッテリー _____

本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線 _____

接続部の緩み損傷

■ スイッチ類 _____

灯火装置・方向指示器の作用
 ホーン・ハンドルロック装置の作用 計器の作用

その他

フレームの緩み・損傷 シャシ各部の給油脂状態

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離 km
点検年月日 年 月 日
整備完了日 年 月 日
タイヤの溝の深さ F mm R mm
ブレーキパッド残量 F mm R mm
点検又は整備を実施した者の氏名 印
住所 〒

定期点検整備記録簿 (電動車)

一輪車	該当なし	／	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6ヵ月点検整備…… +

● 12ヵ月点検整備…… +

※納車時点検は6ヵ月点検に準ずる

電動機点検

■ 本体 _____

電動機の作動状態・異音の有無 低速・加速の状態

■ 動力伝達装置 _____

チェーン・ベルトの緩み
 スプロケット・プーリーの取付状態磨耗

ステアリング装置点検

■ ハンドル _____

操作具合

■ フロントフォーク _____

損傷 ステアリングシステムの取付状態
 ステアリングシステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール _____

タイヤの空気圧 タイヤの亀裂・損傷の有無
 タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
 ホイールのボルト・ナットの緩み
 フロントホイールベアリングのがた
 リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム _____ ■ ショックアブソーバー _____

連結部のがた・アームの損傷 損傷・オイル漏れの有無

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー _____

遊び ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類 _____

緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ _____ ■ リザーバタンク _____

漏れ・損傷・取付状態 ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ _____

機能・磨耗・損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー _____

ドラムとライニングのすき間
 シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

■ バッテリー _____

本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線 _____

接続部の緩み損傷

■ スイッチ類 _____

灯火装置・方向指示器の作用
 ホーン・ハンドルロック装置の作用 計器の作用

その他

フレームの緩み・損傷 シャシ各部の給油脂状態

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離 km
点検年月日 年 月 日
整備完了日 年 月 日
タイヤの溝の深さ F mm R mm
ブレーキパッド残量 F mm R mm
点検又は整備を実施した者の氏名 印
住所 〒

定期点検整備記録簿 (電動車)

一輪車	該当なし	／	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6ヵ月点検整備…… +

● 12ヵ月点検整備…… +

※納車時点検は6ヵ月点検に準ずる

電動機点検

■ 本体 _____

電動機の作動状態・異音の有無 低速・加速の状態

■ 動力伝達装置 _____

チェーン・ベルトの緩み
 スプロケット・プーリーの取付状態磨耗

ステアリング装置点検

■ ハンドル _____

操作具合

■ フロントフォーク _____

損傷 ステアリングシステムの取付状態
 ステアリングシステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール _____

タイヤの空気圧 タイヤの亀裂・損傷の有無
 タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
 ホイールのボルト・ナットの緩み
 フロントホイールベアリングのがた
 リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム _____ ■ ショックアブソーバー _____

連結部のがた・アームの損傷 損傷・オイル漏れの有無

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー _____

遊び ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類 _____

緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ _____ ■ リザーバタンク _____

漏れ・損傷・取付状態 ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ _____

機能・磨耗・損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー _____

ドラムとライニングのすき間
 シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

■ バッテリー _____

本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線 _____

接続部の緩み損傷

■ スイッチ類 _____

灯火装置・方向指示器の作用
 ホーン・ハンドルロック装置の作用 計器の作用

その他

フレームの緩み・損傷 シャシ各部の給油脂状態

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年 月 日
整備完了日
年 月 日
タイヤの溝の深さ
F mm R mm
ブレーキパッド残量
F mm R mm
点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
〒

ELECTRIC MOBILITY

X E V M

